

令和8年度 事業計画



社会福祉法人きらめき会
KIRAMEKIKAI

Philosophy

企業理念

**笑顔が生まれ、つながり、
地域に広がる福祉を。**

私たちは、入居者様・ご家族・職員・地域、
関わるすべての人の「笑顔」を大切にし、
福祉を通じて人と人が支え合う社会を創ります。

Mission

きらめき会の使命

**人を大切にし、
人生と地域に寄り添う福祉を実践する。**

職員が「誇り」と「笑顔」を持って働ける環境をつくる
入居者様が「ここに入居してよかった」と感じられる暮らしを支える
ご家族が安心して大切な人を託せる存在であり続ける
地域の人が気軽に立ち寄り、笑顔になれる場所をひらく

Vision

きらめき会が目指す姿

**誰もが、自分らしく
最期を迎えられる社会をつくる。**

人生の最期まで、その人らしさが尊重され、
安心とあたたかさの中で生きることができる社会。
私たちは、福祉を通じて一人ひとりの人生に寄り添い、
入居者様とご家族、職員、そして地域の想いを支えながら、
誰もが自分らしく最期を迎えられる社会の実現を目指します。

Value

行動指針

1. Dignity | 尊厳

人生の最期まで、尊厳ある暮らしを支えます。
小さな行動にも、敬意を忘れません。

2. Respect | 尊重

入居者様の人生、家族の想い、仲間の価値観、地域の考え方を尊重します。

3. Empathy | 共感

相手の立場に立ち、気持ちに寄り添います。
答えを急がず、心を聴きます。

4. Active Listening | 傾聴

私たちは、常に「聴く姿勢」を大切にします。
自分が話す前にまず聴き、相手の気持ちに寄り添うコミュニケーションを心がけます。

5. Smile | 笑顔

笑顔は、福祉の原点。
入居者様、ご家族、地域、自分自身にも向けます。

6. Teamwork | チームワーク

お互いに利他の心で、自分の考えに固執せず、
支え合い、補い合い、チームで最善を目指します。

Value

行動指針

7. Diversity | 多様性

私たちは、多様性を尊重します。
国籍・年齢・性別・経験・価値観の違いを認め合い、
互いの強みを活かします。

8. Community | 地域

施設は地域の一部。
地域にひらかれ、自然に人が集う存在であり続けます。

9. Safety | 安心

入居者様・ご家族・地域・職員、
関わるすべての人の安心を最優先に考えます。

10. Professionalism | 専門性

知識と技術を磨き、
プロとしての責任あるケアを提供します。

11. Growth | 成長

昨日より今日、今日より明日へ。
学び続け、より良い福祉を追求します。

12. Challenge | 挑戦

私たちは、挑戦することを恐れません。
「今まで通り」にとらわれず、
より良い介護のための工夫と挑戦を続けます。

**社会福祉法人きらめき会
法人本部**

2026年度事業方針

FY2026 PLAN



法人本部 Business HQ



1. 人材育成課の機能強化と戦略的本格稼働

① 育成体系の確立

各施設の状況に応じた年間研修計画を策定・実施し、階層別研修とOJTの標準化を進める。学びを現場実践につなげる仕組みを整備し、継続的な成長を支援する。

② 人材の定着・メンタルサポートの強化

相談窓口体制の整備と定期面談の実施により、安心して相談できる環境を構築する。心理的安全性の高い職場づくりを推進し、定着率向上と離職率低減を図る。

③ 組織力の向上

管理職・役職者へのマネジメント研修を実施し、組織運営力の向上を図る。あわせて、委員会活動を活性化させるとともに、施設間の情報共有を促進し、法人全体の一体感と組織力の強化を目指す。

④ 評価制度の運用定着

人事考課の適切な運用を支援し、評価基準の統一と透明性の確保を図る。あわせて、評価後のフィードバック面談の実施を支援し、評価結果を育成につなげる仕組みを定着させることで、職員の成長を促進する。

2. クレドカード策定および理念・MMV浸透プロジェクト

① クレドカードの策定・全職員配布

法人理念およびMMVを簡潔に整理したクレドカードを制作し、全職員へ配布する。新入職員には入職時に必ず配布し、理念共有の起点とする。クレドを形だけの掲示物にせず、日常業務の中で活用される仕組みを構築する。毎月一つのValueを「月間Value目標」を設定し、全職員へ周知することで、共通の意識を持った行動を促す。また、イベントや行事を企画する際には、どのValueを意識した取り組みであるかを明示し、企画段階から理念との接続を図る。

② 評価制度との連動

人事考課制度およびフィードバック面談に理念実践項目を組み込み、理念体现度を評価と育成の双方に反映させる。評価が単なる成果査定にならないよう、理念に基づいた行動や姿勢を可視化する仕組みを整備する。

③ 法人理念「笑顔」の実践共有と広がり

理念やValueを体現した職員やチームの取り組みを積極的に紹介し、好事例を共有する。笑顔につながった行動を称え合う風土を育てることで、理念の実践が自然と広がる組織づくりを目指す。

3. 新規事業の検討とブランド・地域連携の強化

① 新規事業の創出（国内）

既存事業に依存しない経営基盤を構築するため、新たな収益事業の創出に取り組む。地域ニーズを踏まえたサービス開発（障害、保育、予防介護、複合型サービス等）を検討し、持続可能な法人運営の礎を築く。

② 海外事業の推進

ベトナムにおける介護施設開設に向け、事業基盤の確立を進める。日本式のケア品質・運営ノウハウを現地に展開し、「KIRAMEKIブランド」の国際的価値を高めるとともに、新たな成長領域を創出する。

③ ブランド力の強化と地域連携の深化

「笑顔」という理念を軸に、SNSや広報活動を通じて認知度を向上させるとともに、「きらめき会らしさ」を明確化し、地域・求職者・利用者から選ばれる法人を目指す。同時に、医療機関・行政・地域住民との連携を深化させることで、単なる介護サービス提供者にとどまらず、「地域にとってなくてはならない存在」となることを目指す。

**小規模多機能型居宅介護
横浜いこいの里**

01
横浜

いこいの里

Yokohama
Ikoi No Sato



名称

小規模多機能型居宅介護
横浜いこいの里

住所

神奈川県横浜市泉区中田西4-2-43-2

開所

平成22年4月1日

事業
内容

小規模多機能型居宅介護
介護予防小規模多機能型居宅介護
登録定員：29名（内通い：17名 宿泊：8名）

管理者コメント

横浜いこいの里は2010年4月の設立から16年目を迎え、私が管理者として13年が経過しようとしております。これまで小規模多機能型居宅介護として地域に根ざし、質の高い介護の提供を目標に取り組んでまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響により感染対策を最優先とした結果、地域との交流機会が減少し、施設の認知や特色の発信が十分に行えていなかったことを大きな課題として認識しております。その結果が現在の登録者数にも影響していると受け止め、深く反省しております。今後はレクリエーションや年間行事の見直し、SNSによる情報発信、ボランティアの受け入れなどを積極的に行い、地域に開かれた施設としての魅力を高めてまいります。また、他事業所の協力も得ながら、アピールポイントを明確にし、営業活動を強化していきます。

現在は音楽療法の導入や、ドッグトレーナーと犬によるふれあい活動を開始しており、今後は町会への周知を通じて地域の方にも参加いただくことで、利用者様と地域とのつながりを再構築してまいります。これらの取り組みを通じて、利用者様・ご家族様の安心と信頼をさらに高め、小規模多機能の強みである「通い・訪問・泊まり」の柔軟なサービス提供をより一層充実させてまいります。

人財面においては、職員の高齢化が進む中で、採用と育成の強化が重要課題です。新たな人材の確保に加え、研修や人事考課を通じたスキル向上、法人本部との連携による面談体制の充実などにより、職員の資質・専門性の向上と定着を図ります。また、働きやすい環境づくりを進め、職員一人ひとりが安心して長く働ける職場を目指します。さらに、地域包括支援センターや関係機関との連携を一層強化し、情報共有を通じてサービスの質向上と地域貢献に努めてまいります。今後ご利用者様一人ひとりに寄り添い、住み慣れた地域でその人らしい生活を継続できるよう支援するとともに、利用者様と職員がともに笑顔で「横浜いこいの里でよかった」と感じていただける施設づくりに全力で取り組んでまいります。

2026年度事業方針

FY2026 PLAN

横浜いこいの里

Yokohama ikoi no Sato

目 標

- ◇ 登録者の目標を29名。目標の数字に向ご家族様の負担を軽減出来る様、急な泊まりにも迅速に対応していく。通いサービスの平均化を図り、自宅でも安心して自立した生活を継続出来る様、訪問配食サービスの提供を強化していく。横浜いこいの里を利用して頂き一人ひとりに合わせたそのひとらしい生活ができる様、出来る可能性がある事に着目させて頂き、ご利用者様、ご家族様、職員と共に前向きな気持ちになっていただける様ご支援させて頂く。楽しい人生を過ごして頂けるよう家庭的な空間を提供し喜び、生きがいを感じて頂けるよう日々レクリエーション、年間行事の充実。更に地域交流を深め地域の方々と連携し運営推進会議で関係を深め地域の活性化に貢献していく。

取 り 組 み

- ◎営業体制を強化し、電話によるフォローアップの継続などにより実調件数の増加を図る。
- ◎送迎範囲内のエリアを中心に、職員の協力体制のもとポスティングを再開し、認知向上を図っていく。
- ◎SNS発信を強化し、職員が主体的に情報発信を行う仕組みを構築することで、施設の魅力発信とブランド力向上を図っていく。
- ◎日常レクの質向上およびボランティア活用を推進し、職員の強みを活かした役割分担を行いながら、サービス価値の向上と差別化を図っていく。
- ◎衛生・安全管理を徹底した上でアニマルセラピー等を定期的を実施し、地域への周知を段階的に進めることで来訪機会を創出する。
- ◎地域連携の一環として、他事業所との人財交流を促進し、職員の視野拡大とサービス水準の底上げを図っていく。
- ◎ご家族、地域包括支援センター、行政との連携を強化し、円滑な調整・情報共有を通じて信頼関係の構築と安定的な運営につなげる。
- ◎法人内交流の機会を拡充し、全職員の参加を促進することで組織内コミュニケーションの活性化とチーム力の向上を図っていく。
- ◎内部・外部研修の体系化および資格取得支援を推進し、職員の専門性向上と人材育成を強化していく。

**特別養護老人ホーム
八潮いこいの里**

02

八潮 いこいの里

Yashio
Ikoi No Sato



名称

特別養護老人ホーム
八潮いこいの里

住所

埼玉県八潮市垢526-1

開所

平成30年4月1日

事業
内容

特別養護老人ホーム事業
定員：ユニット90床 従来30床 計120床
短期入所生活介護事業（空床利用）

施設長コメント

令和7年度は離職率20%以下を目標としており、17%で終わることができた。組織図を再構築し相談ルートを明確にすることで対応する職員が見えたことによる影響が大きいと思われる。次年度は15%以下を目標とし施設内の環境を整備していく。

その一方で、基本的な介護技術向上は満足いくものではなかった。福祉用具の適切な使用方法や入浴介助方法、食事介助の仕方など中途採用が多い環境下で自己流の介助が目立つ場面があった。次年度は3大介助をもう一度見直し、ご入居者に安心して生活していただけるような施設運営を目指していく。

「防げる事故・入院を防いでいく」を基本とし、介護職が率先して多職種へ情報共有をしていき、早期受診、事故を未然に防ぐことを意識していく。入居期間を担保すると同時に定期的な営業などにより待機者を創出し、安定した稼働を目標とする。

2026年度事業方針

FY2026 PLAN

八潮いこいの里

Yashio ikoi no Sato

1

介護職員の「気づき」をもとに入院者の低減を目指し、稼働率96%以上を目指す！

急な退去にも対応できるよう待機者を創出し、次の入居への対応をスピーディに行う。
職員の気づきで防ぐことのできるもの（尿路感染・骨折など）は医務とも連携し早期発見し入院を防いでいく。
自立支援促進加算の新規取得を目指し3カ月に1度の委員会を適切に行い、多職種で関り取得を目指し、売り上げを上げていく。

2

基本的な技術向上を目指し「ここに来てよかった」と思えるケアを実践する。

三大介護（入浴・排泄・食事）の基本を施設全体で学びなおす機会を作り、介助方法の徹底を目指す。3カ月かけ内部研修を行い「強化月間」のような形で介護職一体で学ぶ機会を作る。
家族向けに関して、半期に一度は家族参加型のイベントを実施しご入居者・ご家族・職員の交流機会を設ける。施設の中に入っただき八潮いこいの里を知っていただく。

3

離職率15%以内、お互いを尊重しフォローしあえる環境づくりを！

各ユニットの目標設定を行い、進捗を毎月第一火曜日のUL会議で確認。
各役職者の役割を明確にし、役職と実際の動きにギャップが生じないように上位役職者との面談を2カ月に1度定期的に行っていく。
役職者、役職候補者には内部・外部研修に参加してもらい意識向上を図ってもらう。
研修参加後はアウトプットを行い、一般職にも共有を行う。

**特別養護老人ホーム
若葉いこいの里**

03
若葉

いこいの里

Wakaba
Ikoi No Sato



名称

特別養護老人ホーム
若葉いこいの里

住所

千葉県千葉市若葉区若松町531-156

開所

令和3年4月1日

事業
内容

特別養護老人ホーム事業 定員：88床
短期入所生活介護事業 定員：22床

合計：110床

施設長コメント

令和7年度を振り返り、現状の把握と課題を抽出した結果いくつかの重要な経営課題が明らかとなった。

- ・ 新人職者の育成が属人的で、教育の質にばらつきがある。
- ・ 中堅層の不足により、指導・フォロー体制が弱い
- ・ 外国籍スタッフが増加しているが、言語・文化の違いに配慮した育成体制が十分ではない。
- ・ 地域交流は徐々に増えてきているがまだまだ施設の魅力が発信できていない。
- ・ 職員の業務負担感が強く、理念である「笑顔」を十分に実現できていない場面がある。
- ・ 事故件数が多く、十分な振り返りが行われていなかった。
- ・ ヒヤリ・ハットの共有が不足していたことや、育成のばらつき、情報共有の仕組みの弱さが、事故の再発防止に十分つながらなかった要因と考えられます。

以上の課題を踏まえ、令和8年度においては「人財育成体制の強化」および「事故発生件数の削減」を最重要課題として位置付ける。併せて、働きやすい職場環境の整備を推進し、職員の定着および生産性向上を図るとともに、入居者主体のケアの質のさらなる向上に取り組む。また、地域との連携強化および広報機能の充実を通じて、施設の認知向上と信頼性の確立を図り、入居者・家族・地域から選ばれる施設運営を推進していくものとする。

2026年度事業方針

FY2026 PLAN

若葉いこいの里

Wakaba ikoi no Sato

1

人財育成の充実

- 新人研修・フォローアップ研修・専門研修の強化
- 指導内容のチェックリスト化
- リーダー研修を実施し、マネジメント力・指導力・記録指導力の向上を図る。
- 外国籍スタッフの教育強化（国家試験対策・事故発生時の対応・ハラスメント等）

2

ケアの質の統一

- 職員間のケアのばらつきをなくし、誰が担当しても同じ質のケアを提供できる体制をつくる。
- 事故・ヒヤリハットの分析強化と改善サイクルの定着
- 情報共有の標準化（申し送り、記録の見える化）

3

地域連携の構築

- 地域イベントへの積極参加
- 災害時・緊急時の地域連携体制を強化
- 施設内外での交流
- 地域ボランティアによる演奏会・読み聞かせ

4

事故発生後の振り返り体制の強化

- 情報共有の強化
- ヒヤリ・ハットの収集と見える化
- 新人研修に「事故防止の基本（転倒・誤薬・誤嚥）」を必須化

**特別養護老人ホーム
横浜旭いこいの里**

横浜旭 いこいの里

Yokohama Asahi
Ikoï No Sato



名称

特別養護老人ホーム
横浜旭いこいの里

住所

神奈川県横浜市旭区西川島町118-10

開所

令和7年11月1日

事業
内容

特別養護老人ホーム事業 定員：200床
短期入所生活介護事業 定員：20床

合計：220床

施設長コメント

令和7年11月の開設以降、当施設は理念である「4つの笑顔」と「地域との共生」の実現に向け、施設運営の基盤構築に注力してまいりました。地域に根ざした存在として信頼を得るため、入居者様・ご家族様・職員・地域のすべてに笑顔が広がる環境づくりを目指し、日々の運営に取り組んでおります。

開設初年度は、職員体制の構築や入居受け入れ体制の整備に加え、各種委員会の立ち上げやケア手順の標準化を進め、安定的な運営基盤の確立に努めております。また、現場における課題の抽出と改善を繰り返しながら、組織としての一体感醸成とサービス品質の均一化にも取り組んでおります。

入居状況につきましては、段階的な稼働率の向上を図りつつ、入居者様一人ひとりの状態やニーズに応じた個別ケアの充実に努めております。加えて、職員の専門性向上を目的とした研修の実施やOJTの強化を通じて、ケアの質の底上げとサービス提供力の向上を推進しております。

さらに、令和8年度においては、これまでに構築してきた基盤をより強固なものとし、地域及び関係機関との連携を一層強化し、安定的な入居促進と信頼性の高い運営体制の確立を目指してまいります。併せて、早期の満床達成と持続可能な経営基盤の確立を目指して参ります。

2026年度事業方針

FY2026 PLAN

横浜旭いこいの里

Yokohama Asahi ikoi no Sato

1 職員が安心して働ける職場環境の確立

- 定期面談の実施（年2回）
- 新人職員フォロー体制の確立
- 接遇研修の実施（年2回）
- 離職率20%以下

2 稼働率の安定化による経営基盤の強化

- 年間平均稼働率98%以上
- 待機者常時10名以上確保する
- 入院や退去による空室期間の短縮
- 各種加算取得体制の整備

3 ケアの質向上

- ケアマニュアルの再整備を実施
- 事故件数を前年比20%削減
- 接遇研修、認知症ケア研修の実施（年2回）

4 地域との共生

- 医療機関との情報共有体制整備
- 地域行事への参加
- ボランティア受け入れ体制の整備